

横浜市立市民病院再整備

基本設計の概要

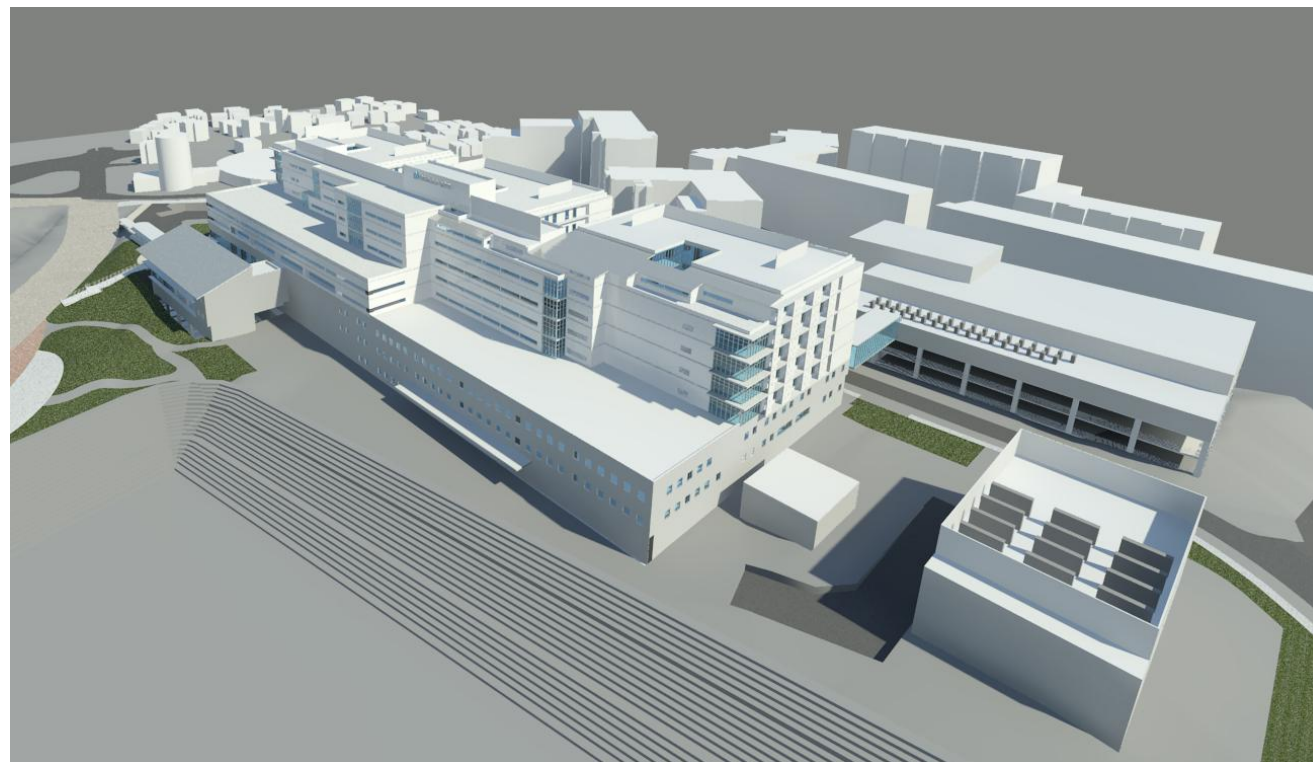
平成 28 年 4 月

横浜市医療局病院経営本部

目次

■ 設計の基本方針・計画概要	
1. 設計の基本方針	・・1
2. 計画概要	・・5
■ 建築計画	
1. 施設整備の基本方針	・・7
2. 立地と環境	・・8
3. 配置計画、外部動線計画	・・9
4. 部門配置計画	・・12
5. 各階の計画	・・14

1 設計の基本方針



1 新病院の目指す姿 「横浜市民市民病院再整備基本計画」より

1-1 医療提供に係る基本方針

高度急性期を中心とした将来にわたる先進的な医療サービスの提供と 市立病院としての役割の発揮

新市民病院では、市立病院としての役割をしっかりと果たし、市民に必要な医療と安心を提供していくため、次の3つの拠点機能を担っていきます。

(1)政策的医療の拠点

新市民病院は、公立病院として、救急医療や小児・周産期医療、がん対策など、市民が必要とされる政策的医療を積極的かつ中心的に担っていくことで、「政策的医療の拠点」としての役割を果たしていきます。

(2)市民の健康危機管理の拠点

新市民病院は、大災害の発生時や感染症のパンデミック等にも対応した診療機能を持つとともに、他の医療機関に対する教育・研修機能やコンサルティング機能の強化を図るなど、「市民の健康危機管理の拠点」としての役割を担っていきます。

(3)地域医療全体の質向上のための拠点

新市民病院は、医療機関相互の機能分担と連携により、地域全体で市民に対する良質な医療を提供していくため、患者支援機能の強化、地域連携の推進や地域医療人材の育成に取り組むなど、「地域医療全体の質向上のための拠点」としての役割を果たしていきます。

1-2 整備・運営に係る基本方針

新市民病院の整備・運営にあたり、次の3つの基本方針のもとに具体的な機能や運用を検討し、必要な施設・設備やサービス、運営システム等の整備・充実を図っていきます。

(1)患者や医療従事者に信頼され、選ばれる病院

医療機能の充実や質向上はもとより、患者・家族にとっては、より良い療養環境と適切なサービスが受けられる病院、地域医療機関にとっては、よりスムーズな地域連携が実現でき、安心して患者を紹介できる病院、医療従事者にとっては、やりがいがあり働きたいと思う病院にします。

(2)環境と調和し、人にも環境にも優しい病院

一般の市民も利用できる施設の整備や周辺施設との連携事業の展開など、周辺環境とのつながりの中で地域の魅力向上を図ります。また、高齢化や国際化等にも対応したユニバーサルデザイン化を進めるとともに、環境に配慮したエネルギー対策を推進します。

(3)安全で良質な医療サービスの提供と健全な病院経営

患者に安全で良質な医療サービスを提供することを第一としつつ、建設費の縮減に努めるとともに、病院運営や業務の効率化、コストの縮減に取り組むなどで、安全で良質な医療と健全な病院経営との両立を実現します。

1 設計の基本方針

2 新しい市民病院の主な機能 「横浜市民立市民病院再整備基本計画（概要版）」より

2-1 救急医療の充実を図り、より多くの救急患者を受け入れます。

- ・救命救急センターの病床数を増やします。
- ・救急救命士の人材育成のため、救急ワークステーションを設置します。
- ・救急隊との密接な連携により効果的に救急医療を実施します。

2-2 小児救急医療の充実、周産期医療の機能強化を図ります。

- ・小児救急拠点病院としての体制充実を図ります。
- ・NICU(新生児集中治療室)やGCU(新生児治療回復室)の病床数を増やし、新生児医療の充実を図ります。
- ・出産年齢の高齢化に伴うハイリスク分娩の増加に対応します。

2-3 検診から緩和ケアまで総合的ながん対策の充実・強化を図ります。

- ・手術室の増設やロボット手術などの新技術の導入を進めます。
- ・放射線治療や化学療法の充実を図ります。
- ・緩和ケア病床を増やし、本市の緩和ケア医療提供体制を充実します。
- ・がん検診センターについて、土日検診の拡充を図ります。

2-4 大災害・感染症などに対して、最前線で医療提供を行います。

- ・ターミナル駅である横浜駅に近く、かつ高台に位置しており、広域応援活動拠点などに指定されている三ツ沢公園に隣接する利点を活かし、災害医療の中核的施設としての機能を強化します。
- ・重症患者などの広域搬送に備えた市内臨時拠点やDMAT(災害派遣医療チーム)の活動拠点機能を整備します。
- ・新型インフルエンザなどの流行に対応するほか、県内で唯一の第一種感染症指定医療機関としての機能強化を図ります。

2-5 地域全体で患者を支援するための体制を整えます。

- ・多職種による入退院支援や連携施設との調整などを一元的に行う「患者総合サポートセンター」を整備します。
- ・急性期の治療からリハビリテーション、在宅医療や介護に至るまで、地域全体で一貫して患者を支援することができる面的連携体制の整備を進めます。
- ・ICTの活用などによる患者情報ネットワークシステムの構築を進めます。
- ・講堂や研修室などを整備し、地域医療従事者のための研修会を開催するなど、地域医療人材の育成に貢献します。

2-6 患者や医療従事者などから信頼され、選ばれる病院となります。

- ・地域医療機関との連携を強化します。
- ・できる限り待ち時間が生じない診療体制を実現し、待ち時間が生じた場合でも院内のカフェ、レストランなどで快適に過ごせるようにします。
- ・多床室は4床室(現在は6床室)とし、療養環境の向上を図ります。
- ・重症患者や感染症患者などに適切に対応し、患者のプライバシーが守れるよう個室の充実を図ります。

2-7 人にも環境にも優しく、誰でも利用しやすい施設を整備します。

- ・太陽光発電の導入など、地球温暖化防止のための取組を進めます。
- ・ユニバーサルデザインの考え方にに基づき、年齢や障害の有無、使用する言葉などに関わらず、誰もが利用しやすい施設、設備を整えます。
- ・案内表示・説明書・ホームページの多言語化などにより、国際化への対応を進めます。
- ・病院に設置するカフェやレストラン、コンビニエンスストアなどを公園利用者が利用しやすい配置とすることで、病院と公園の一体性を高めます。

■ 設計の基本方針・計画概要

1 設計の基本方針

3 設計主旨

三ツ沢公園と一体となる次世代型「パークホスピタル」

- ・三ツ沢球技場の声援や照明に対する患者の環境確保のため、1フロア3看護単位のすべての病棟を南向きに並列配置した病棟を計画します。
- ・全体ゾーニングは「サービスコアゾーン」、「病棟・外来ゾーン」、「スタッフ・診療ゾーン」の3つの明快なゾーンにより構成する分かりやすい計画とします。
- ・公園と一体になったロータリーや利便施設、多目的活動スペースを計画し、大規模災害時には公園側に配置した救命救急センターとも連携が図れる計画とします。

3-1 立地条件を活かした敷地利用計画（公園との隣接を活かした配置計画、交通計画）

①敷地の形状と高低差を活かした配置計画

- ・整形で最大の建物ボリュームを設定し、敷地の緩い高低差を活かした配置計画とします。
- ・神奈川区側に診療に係る主な機能を集約した診療棟などを、また、西区側に病院管理に係る主な機能を集約した管理棟を配置します。両棟を渡り廊下で接続します。

②三ツ沢公園に隣接する利点を活かした配置計画

- ・病院の正面口と公園入口を同じレベルに設定し、大きなバスロータリーを設けるなど一体性のある開放的な空間として整備します。
- ・公園利用者にも開放し一帯のにぎわいを創出するため、公園との境にレストラン、コンビニエンスストアなどの利便施設を配置します。
- ・公園内のヘリポートと連携するため、救命救急センターを公園側に配置します。
- ・災害時は、公園と隣接した利点を活かして多くの患者を受け入れるとともに、自衛隊や消防、他の地域から派遣された医療チームなどと連携して対応するスペースを確保します。

③安全で利便性に配慮した交通計画

- ・診療棟に約200台の地下駐車場を計画し、東西二方向から入庫が可能な計画とします。
- ・救急患者の搬送は緊急時を含めて東西二方向の道路からと公園内ヘリポートの3ルートを確認します。

④三ツ沢球技場の声援・照明の影響を避けた建物配置

- ・病棟と外来はスポーツ観戦の声援や照明の影響が少ない南側に配置します。
- ・球技場側には声援や照明の影響を受けにくいスタッフ・診療ゾーンを配置します。

3-2 高度急性期病院として求められる機能と部門配置計画

ア 全体

①3つのゾーンによる建物構成

- ・「サービスコアゾーン」の南北に「病棟・外来ゾーン」と「スタッフ・診療ゾーン」を配置した明快な構成とし、わかりやすく効率的な平面計画とします。
- ・エレベーター、階段、設備シャフトをサービスコアゾーンに集約します。

②合理的な部門配置計画

- ・様々な機能を効果的・効率的に発揮するため、関連する部門の近接性やつながり、人や物の流れを重視した部門配置計画とします。
- ・関連する部門は、同フロアに配置するか、直上階・直下階に配置してエレベーターなどで連絡する計画とし、動線短縮と機能連携の強化を図ります。
- ・効率的な救急医療を行うため、地下1階に救命救急センター・ERと画像診断、内視鏡を配置します。また、救急隊と密接に連携を図るため、救急ワークステーションを併設します。
- ・周術期の医療の連携を強化するため、2階に手術、血管造影、ICU・CCU病棟、救急病棟を隣接して配置します。
- ・救急、周術期、小児・周産期の医療に係る部門と病棟を東側の上下階に集約して配置し、エレベーターによる患者の搬送距離を短縮します。
- ・感染症外来の直上に感染症病棟を配置し、専用エレベーターで迅速に搬送します。

③災害拠点病院としての機能強化

- ・地震に強い免震構造を採用し、ライフライン（水・電気等）の確保、救命救急センター機能の強化を行います。

イ 外来診療フロア

①わかりやすく利便性に配慮した部門配置計画

- ・外来診療部門は2フロアに集約して配置し、患者にわかりやすく効率的な配置とします。
- ・外来診療フロアは回遊動線（センターストリートと外来待合ホール）に沿ってエレベーターホールと受付を配置し、患者にとって視認性が高く全体がわかりやすい構成とします。
- ・地下駐車場と外来診療フロアをエレベーターで直結し、車利用の患者・家族が直接入館できる構造とします。
- ・エスカレーターは、外来がほぼ1フロアで完結していることや利用者の転倒防止などの観点から設置しないこととします。

ウ 病棟フロア

①チーム医療を推進する3病棟並列配置

- ・1フロアに3つの病棟を並列配置し、病棟間の連携と関連診療科の病床調整がしやすい構造とします。
- ・病棟は可変性をもたせて重症度や医療・看護必要度が高い患者に対応します。
- ・スタッフゾーンと患者ゾーンを明確に分離し、1フロア共用の研修室を設置するなど、3病棟の相互利用と多職種によるチーム医療の環境を整備します。

②高齢化に対応した看守りハイケア病棟

- ・スタッフステーションを中央に配置して病室が取り囲む構成とし、看護動線を短縮します。
- ・重症室と1床室をスタッフステーション近くに配置し、迅速な対応が可能な計画とします。
- ・1床室は廊下側の窓越しにスタッフステーションから看守りができる構造とします。

1 設計の基本方針

3-3 アメニティの充実

- ・眺望の良い病棟のデイルームや公園に面した利便施設など、恵まれた外部環境を活かし、患者・家族の滞留スペースを充実します。
- ・働きやすい環境の整備として、院内保育所の定員増員、職員食堂の設置、横浜市立大学などとの連携強化に向けた研究医などの研究スペースの設置などを行います。

3-4 可変性の確保（医療環境の変化や設備・機器の増設・更新等に柔軟に対応できる施設）

- ・ロングスパン構造と乾式工法の間仕切壁により、間仕切改修に対応しやすい計画とします。
- ・病室は個室から多床室に、多床室から個室に改修が可能な構造とします。
- ・3・4階と地下1階画像診断付近に将来の拡張を見込んだスペースを確保します。
- ・診療棟の西側に放射線治療などを想定した増築用地を確保します。

3-5 コスト縮減（新病院建設に伴う将来の経営負担を軽減するため建設コストを低減）

- ・診療棟は単純で整形なロングスパン構造とし、外壁面積や杭・免震装置数を縮減します。また、鉛直ブレースをバランス良く配置し耐震性を確保しつつ鉄骨量を縮減します。
- ・免震層を地下駐車場の階に設けることで最小限の付加コストで土地の有効利用と利便性向上を図ります。
- ・病棟と外来の配置を工夫し、三ツ沢球技場に対する防音対策コストを縮減します。
- ・主たる医療機能のない管理棟や利便施設棟は耐震構造としコストを縮減します。
- ・掘削土は可能な限り敷地内の造成に利用し、場外処分を抑制します。

3-6 環境配慮（維持管理コストの低減と省エネルギー対策）

- ・ESP事業の導入を想定しエネルギー棟を別棟で整備します。民間活力導入による運転ノウハウ活用とエネルギー自由化を見据えた運営の最適化に対応し、省エネルギーに寄与します。
- ・井水を雑用水に利用し維持管理コストを低減します。
- ・太陽光発電などの自然エネルギーを利用します。

■ 設計の基本方針・計画概要

2 計画概要

1 敷地概要

所在地	〔神奈川区側〕	〔神奈川区側〕横浜市神奈川区三ツ沢西町34番地10他
	〔西区側〕	〔西区側〕横浜市西区宮ヶ谷25番地6
敷地面積	〔敷地全体〕	29,422.81㎡
	〔神奈川区側〕	23,860.23㎡
	〔西区側〕	5,562.58㎡
工事名称	横浜市立市民病院再整備工事(仮称)	
発注者	横浜市	
都市計画区域	都市計画地域内(市街化区域)	
用途地域	〔神奈川区側〕	第1種住居地域
	〔西区側〕	
高度地区	〔神奈川区側〕	第4種高度地区
	〔西区側〕	
防火指定	〔神奈川区側〕	準防火地域
	〔西区側〕	
指定容積率	〔神奈川区側〕	200%
	〔西区側〕	
指定建ぺい率	〔神奈川区側〕	60%(角地緩和+10%あり、風致地区部分は40%)
	〔西区側〕	
道路種別	〔神奈川区側〕	(東、西、南側)幅員10.5m 接道長さ369.56m
	〔西区側〕	(西側)幅員4.5m 接道長さ58.47m
		(北側)幅員10.5m 接道長さ108.07m
地域地区等	〔神奈川区側〕	第4種風致地区(旧三ツ沢公園部分のみ)、
		宅地造成工事規制区域、緑化地域、
	〔西区側〕	周辺地区または自動車ふくそう地区(横浜市駐車場条例)
		宅地造成工事規制区域、緑化地域、
道路斜線制限	〔神奈川区側〕	1.25L(適用距離20m)
	〔西区側〕	
隣地斜線制限	〔神奈川区側〕	20m+1.25L
	〔西区側〕	
北側斜線制限	〔神奈川区側〕	7.5m+0.6 L(市街地環境設計制度による周辺北側斜線)
	〔西区側〕	7.5m+0.6 L(第4種高度地区、絶対高さ制限20 m)
周辺配慮斜線 (市街地環境設計制度)	〔神奈川区側〕	■周辺高度地区第1種 10m+1.0 L(周辺配慮斜線) 5.0m+0.6L(周辺北側斜線)
		■周辺高度地区第4種 20m+1.0 L(周辺配慮斜線) 7.5m+0.6L(周辺北側斜線)
日影規制	〔神奈川区側〕	4時間 / 2.5時間 / 4m
	〔西区側〕	

2 建物概要

2-1 建物概要

建物名称	横浜市立市民病院	
主要用途	病院、駐車場 (消防法別表第1第16項イ)	
工事種別	新築	
階数・構造	〔診療棟〕	地下2階 / 地上7階 / 塔屋1階 S造一部SRC / RC造(免震構造) / 杭基礎
	〔利便施設棟〕	地下1階 / 地上2階 / S造、直接基礎
	〔ロータリー棟〕	地下1階 / S造、直接基礎
	〔サービス棟〕	地下1階 / S造、直接基礎
	〔エネルギー棟〕	地下2階 / 地上1階 / S造、杭基礎
	〔管理棟〕	地上4階 / S造、杭基礎
建築面積	〔神奈川区側〕	10,611.48㎡
	〔西区側〕	2,978.03㎡
	〔合計〕	13,589.51㎡
延べ面積	〔神奈川区側〕	68,053.03㎡ (駐車場除 57,632.30㎡)
	〔西区側〕	10,753.01㎡ (駐車場除 5,902.17㎡)
	〔合計〕	78,806.04㎡ (駐車場除 63,534.47㎡)
容積率対象 延べ面積	〔神奈川区側〕	56,146.93㎡
	〔西区側〕	8,485.92㎡
	〔合計〕	64,632.85㎡
駐車場等※を 除いた床面積	〔神奈川区側〕	56,146.93㎡
	〔西区側〕	5,785.68㎡
	〔合計〕	61,932.61㎡
建ぺい率	〔神奈川区側〕	44.47%
	〔西区側〕	53.53%
容積率	〔神奈川区側〕	235.31%
	〔西区側〕	152.55%
診療科目	33診療科 腎臓内科、血液内科、腫瘍内科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、小児科、消化器外科、炎症性腸疾患(IBD)科、乳腺外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、救急脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、神経精神科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、歯科口腔外科、感染症内科、救急総合診療科、病理診断科、緩和ケア内科、糖尿病リウマチ内科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科(横浜市組織図(平成27年12月1日現在)に基づく診療科を掲載)	
計画外来者数	1,200人程度/日	
計画病床数	650床	
	(一般病室 536床 / ICU・CCU 14床 / EICU・EHCU 28床 / NICU・GCU 21床 / 感染症病床 26床 / 緩和ケア病棟 25床)	

※駐車場等:駐車場、EV昇降路、備蓄倉庫、非常用発電室

■ 設計の基本方針・計画概要

2 計画概要

2-2 電気設備概要

受電電源	スポットネットワーク受電、受電電圧 22kV 50Hz
電力設備	無停電電源設備(UPS)、幹線・動力設備、電灯・コンセント設備、中央監視設備
弱電設備	電話配管配線設備、情報(LAN)配管設備、呼出設備(インターホン、ナースコール) テレビ共聴設備、時計設備、防犯・入退室管理設備、放送設備
防災設備	非常用発電機、非常照明・誘導灯設備、直流電源設備、非常放送設備(非常／業務兼用) 自動火災報知設備、総合操作防災盤、雷保護設備

2-3 昇降機設備概要

エレベーター	全17台 乗用900kg(定員13名)×6台、乗用750kg(定員11名)×2台、寝台用1, 150kg(定員17名)×5台、寝台用1, 500kg(定員23名)×1台、寝台用1, 000kg(定員15名)×1台、人荷用2, 000kg(定員30名)×1台、荷物用1, 000kg×1台
--------	--

2-4 空調和設備概要

熱源設備	ESP方式(ESP事業者施設より冷水・温水・冷温水及び蒸気の供給を受ける)
空調設備	冷水・温水・冷温水による空調機及びファンコイルユニット、一部空冷ヒートポンプパッケージ
換気設備	ゾーン別セントラル換気システム、一部空気清浄フィルタユニット
排煙設備	機械排煙設備

2-5 衛生設備概要

給水設備	上水給水:横浜市水・井水利用、受水槽・加圧給水方式 雑用水給水:井戸水利用(一部上水利用)、受水槽・加圧給水方式
排水設備	公共下水道直接放流、特殊排水処理設備
給湯設備	中央給湯方式、個別給湯方式
消火設備	スプリンクラー消火、連結送水管、泡消火(駐車施設)、新ガス消火、簡易フード・ダクト消火 移動式粉末消火
ガス設備	南側道路より中圧ガスを引き込み(敷地内ガバナー設置) 中圧ガス供給:熱源設備、低圧ガス供給:栄養部、検査部門等
特殊設備	医療ガス設備、RI排水処理設備、検査系排水処理設備、感染系排水処理設備

3 その他の主な整備対象施設

- ・気送管設備
- ・駐車場、駐輪場・バイク置場、設備トレンチ、給排気塔、緑化施設、雨水排水設備、遊水地(雨水抑制槽)、受水槽の基礎及び構造体、消防用水、擁壁、囲障(フェンス等)、舗装、敷地内照明設備、オイルタンク
- ・主な別途工事:駐車場管制設備、井水取水設備、利便施設・診療棟テナント内装

■ 建築計画

1 施設整備の基本方針

1 施設整備の基本方針

本計画の敷地は三ツ沢公園、ニッパツ三ツ沢球技場に隣接した丘陵地に位置しており、現状の野球場敷地と前面道路に約4mの高低差があり、東西に長い敷地形状となっています。このような特徴的な敷地条件に対し、下記5つの方針をもとに計画を行います。

①公園入口にふさわしい環境形成

- ・公園入口レベルに病院正面玄関(T.P49.6m)を設定します。
- ・病院と公園入口が一体となる「アプローチゾーン」を計画します。
- ・公園利用者にも開かれた大きなバスロータリーを計画します。

②災害時、日常時の公園との一体化

- ・地下1階救命救急センター(T.P45.1m)は公園と連携できる地盤レベルに設定します。
- ・公園側に公開空地(多目的活動スペース)を設け、広域避難場所である三ツ沢公園との連携が可能な計画とします。
- ・救急車はロータリー側から進入、西側出入口から退場をメインルートとします。なお、緊急時の西側出入口に加え、公園ヘリポートの計3ルートを確認します。
- ・新バス停に近接して公園利用者も使いやすい便利施設(T.P49.6m)を配置します。

③敷地高低差を活かした交通計画

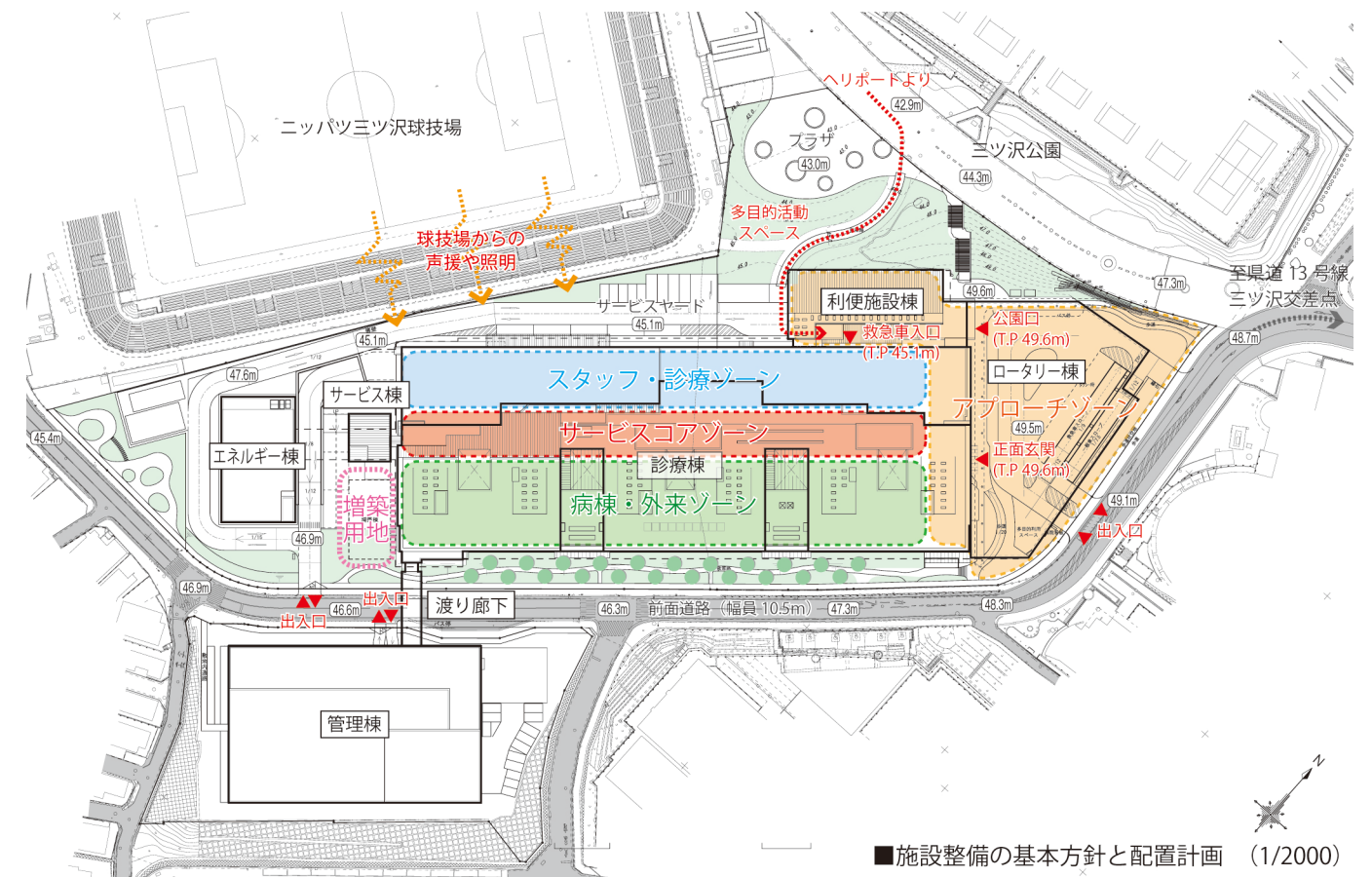
- ・病院正面玄関・ロータリー(T.P49.6m)を公園入口、前面道路レベルに設定します。
- ・地下駐車場は免震層レベル(T.P40.5m)に配置します。
- ・敷地西側の入口は三ツ沢交差点から十分な距離を確保することで周辺道路への影響を低減した計画とします。

④4つのゾーンによる病院構成

- ・正面玄関となる「アプローチゾーン」、病院の背骨となる「サービスコアゾーン」、コアを挟んで南側の「病棟・外来ゾーン」、北側の「スタッフ・診療ゾーン」の4つの構成で計画します。
- ・病棟は住宅地に配慮して3ブロックに分節し、圧迫感の低減を図ります。
- ・サービスコアゾーンにエレベーターと階段を集約した明快な縦動線を計画するとともに、電気・機械の主なシャフトを設け、長期的視点からの維持管理や変化に対応しやすい計画とします。

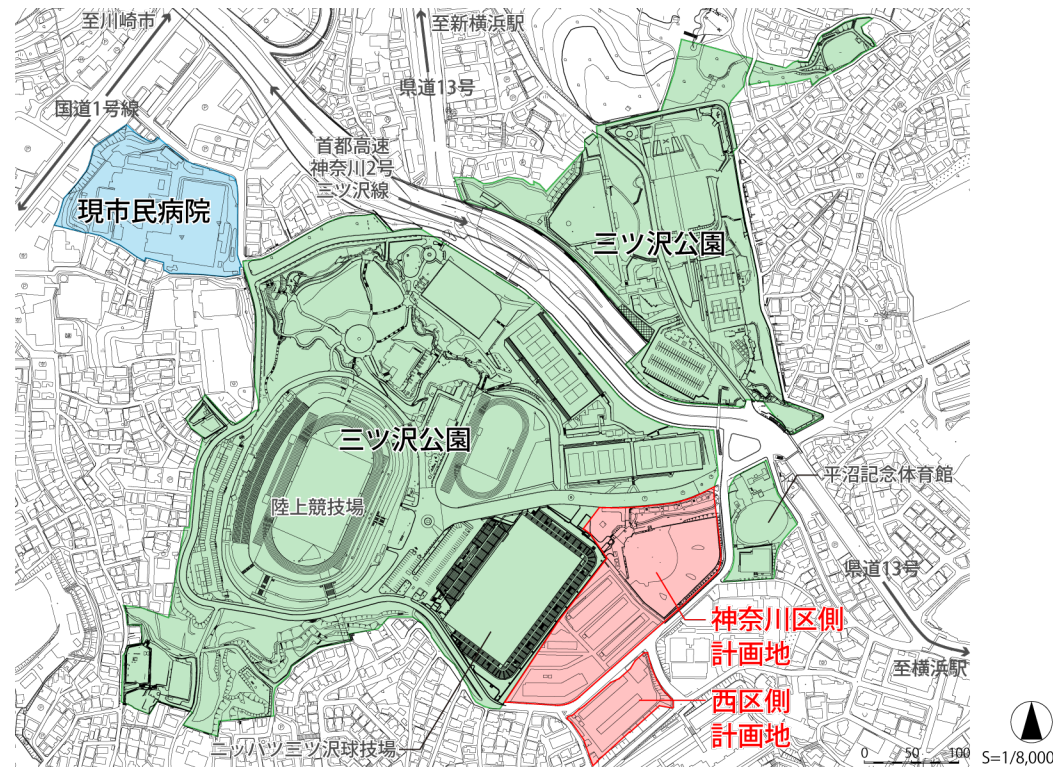
⑤球技場の声援や照明の影響を避けた病棟配置

- ・病棟・外来ゾーンは球技場の声援や照明の影響が少ない前面道路側に配置し、病室への影響を緩和します。また、球技場側にスタッフ・診療ゾーンを配置します。
- ・病室は球技場側を避けることにより、防音対策の費用を極力抑えた計画とします。

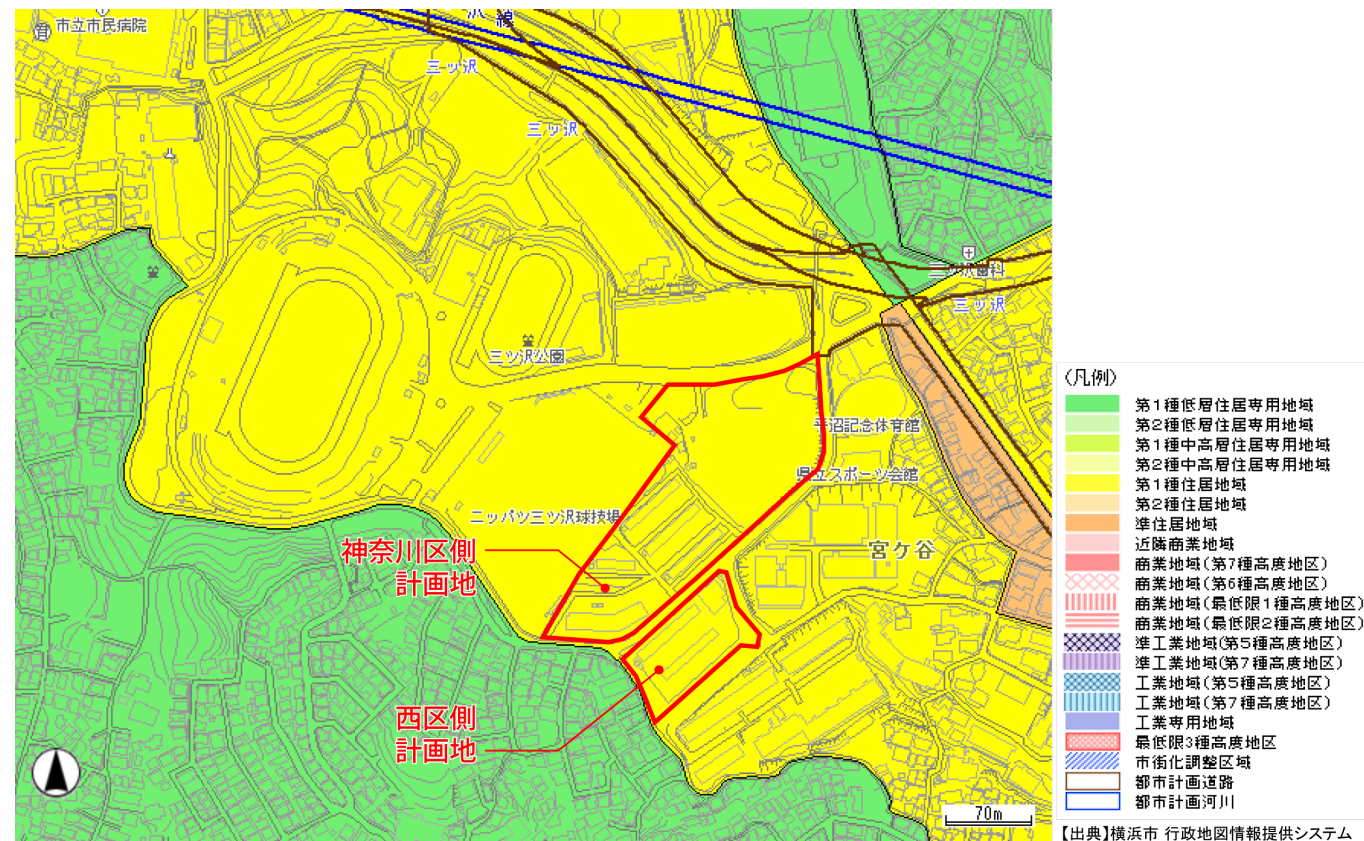


2 立地と環境

1 案内図



2 都市計画図



3 気候条件（神奈川県横浜市）

項目	内容
気象データ(横浜気象台1897年～2014年2月:気象庁、横浜地方気象台ホームページ内気象統計情報より)	
最高気温	37.4℃(2013年8月11日)
最低気温	-8.2℃(1927年1月24日)
主な風向	夏-南西, 冬-北(1990年～2010年統計)
最大風速	37.4m/s 向き:北東(1938年9月1日)
瞬間最大風速	48.7m/s 向き:北東(1938年9月1日)
最大降水量	(1日)287.2mm/日(1958年9月26日) (1時間)92.0mm/h(1998年7月30日)
月最深積雪量	45cm(1945年2月26日)
降雪の深さの合計	(月)53cm(1984年1月) (日)30cm(1954年1月24日)

4 敷地現況

敷地は横浜駅から北西1.5km程、海拔45m前後の丘陵地に位置し、都市公園である三ツ沢公園に隣接し、現在は三ツ沢公園の一部である野球場及び民有地となっています。敷地は、県道13号横浜生田線(新横浜通り)に接続する幅員10.5mの前面道路を介して神奈川区側及び西区側に分かれており、神奈川区側敷地の北西にはニッパツ三ツ沢球技場などがあります。また、敷地周辺は前面道路を尾根線とした勾配があり、既存の三ツ沢公園野球場は前面道路と4m程度の高低差があります。なお、現市民病院は三ツ沢公園を挟んで北西側にあります。



県道13号線・三ツ沢交差点



三ツ沢公園入口



神奈川区敷地 東側前面道路



神奈川区敷地 南側前面道路



西区側敷地



西区側敷地 西側前面道路

3 配置計画、外部動線計画

1 配置計画

1-1 全体の配置

- ・敷地固有の諸条件(細長い形状、高低差、高さ制限、近隣への配慮、公園との隣接、球技場の影響等)に対して、整形で最大の建物ボリュームを設定し、敷地の緩い高低差を活かした配置計画とします。
- ・前面道路で分けられた2つの敷地に対し、神奈川区側に診療に係る主な機能を集約した診療棟などを、また、西区側に病院管理に係る主な機能を集約した管理棟を配置します。
- ・診療棟と管理棟は道路上空の渡り廊下で接続し、円滑な機能連携を図ります。
- ・診療棟の北東側にはバス・タクシーなどの車寄せとなるロータリー棟、コンビニエンスストアやレストラン等を集約した利便施設棟を配置し、隣接する三ツ沢公園との連続性を持ったアプローチゾーンを形成します。
- ・診療棟の西側には、病院機能の維持に係る機能を集約したエネルギー棟、サービス棟を配置します。
- ・周辺環境、地域住民の視線に配慮し、物品搬入のためのサービスヤード、及び救急車のアプローチを診療棟北側に設けます。
- ・本館北側には三ツ沢公園と連続する公開空地(横浜市市街地環境設計制度による)を設け、日常時も災害時も病院と公園の各々の機能やスペースをお互いに活かした一体的な利用を促す配置計画とします。また、公園の植栽帯との連続性に配慮し敷地内に十分な緑地を確保します。
- ・診療棟西側に増築用地を確保し、将来の医療機能の変化、医療機器の更新に柔軟に対応できる計画とします。

1-2 交通計画

- ・敷地周囲の高低差を利用し、歩行者と自動車、また、自家用車と救急車と物品搬入車の動線と出入口を分離した計画とします。
- ・自家用車による来院者用に診療棟の地下に約200台の駐車場を設け、車利用の患者・家族が病院中央部の地下エントランスから直接入館できる構造とします。また、緊急時に配慮し東西二方向から入庫が可能な計画とします。
- ・救急車はロータリー側から進入、西側出入口から退場をメインルートとします。なお、緊急時の西側出入口に加え、公園ヘリポートの計3ルートを確保します。

1-3 各棟の配置計画の概要

①診療棟

- ・東西に長い敷地形状に沿った建物形状とし、長大な建物の圧迫感を軽減するため、前面道路から十分なセットバックを確保するとともに、高層部(3～7階)を3つのボリュームに分節します。また、道路沿いに歩道や植栽帯を整備するなど周辺を含めた環境に配慮します。
- ・ニッパツ三ツ沢球技場に隣接するため、スポーツ観戦の歓声や夜間照明の影響の少ない前面道路側に病棟、外来をまとめて配置し、快適な療養環境を確保します。

②管理棟

- ・敷地南側の傾斜地への影響と、高度地区の北側斜線に配慮した配置計画とします。
- ・東側に保育所の園庭を設けます。

③ロータリー棟

- ・車両の主なアプローチとなる県道13号線側に設け、円滑な交通計画を行います。
- ・ロータリー棟は前面道路(診療棟1階レベル)と救急・サービスヤード(診療棟地下1階レベル)、地下駐車場(診療棟地下2階レベル)を円滑に繋ぐ計画とし、敷地周囲の高低差を利用した計画とします。

④利便施設棟

- ・病院利用者に加え、三ツ沢公園の利用者や周辺住民の利用にも配慮した配置とします。
- ・敷地形状、及び公園からの見え方に配慮した配置計画とします。

⑤エネルギー棟

- ・前面道路向かい側の第一種低層住居専用地域の住宅からの視線に配慮し、地下階を設けて建物高さを抑える計画とします。

⑥サービス棟

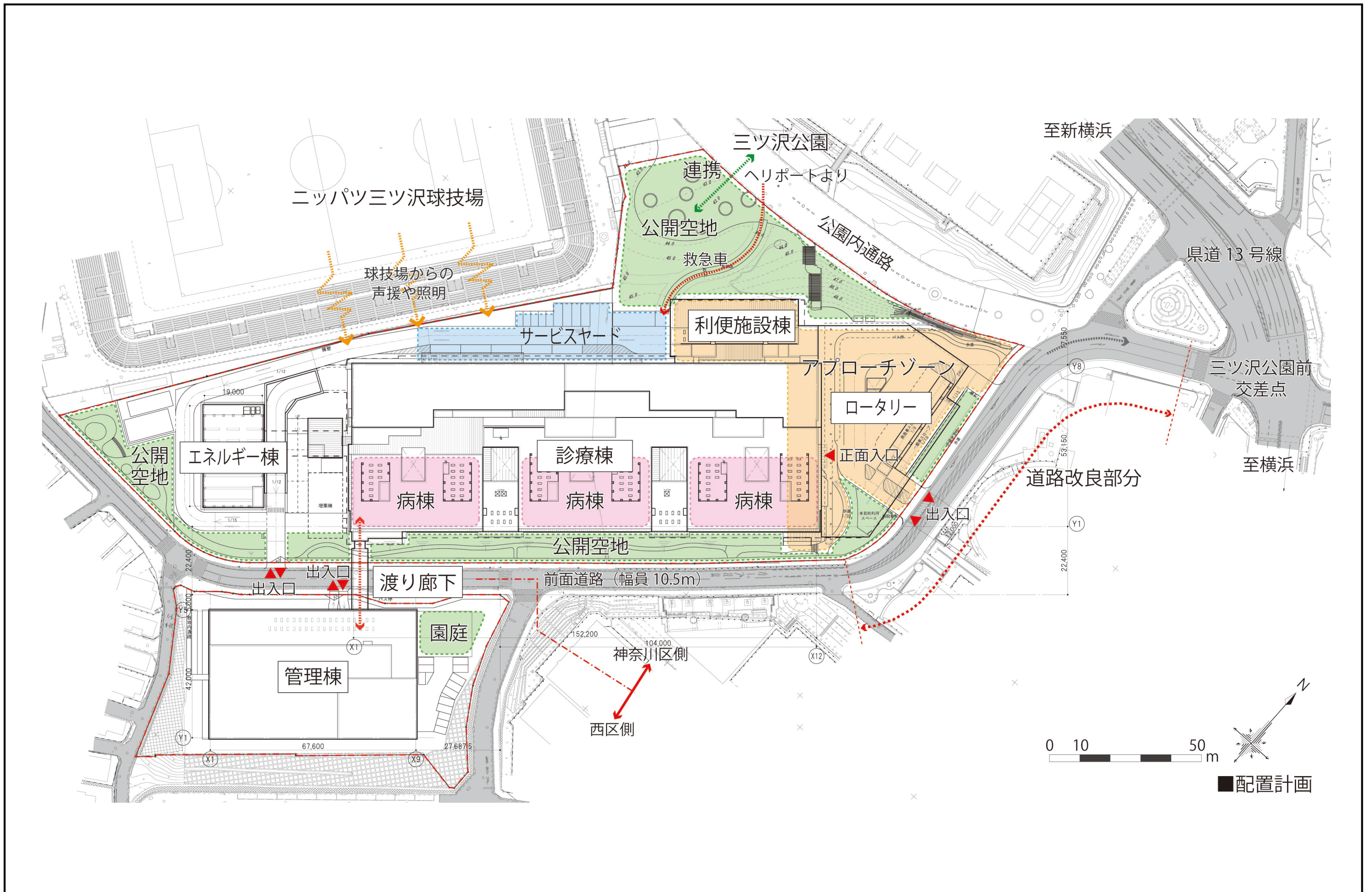
- ・廃棄物の搬出、屋外ゴミ置き場に配慮した配置計画とします。
- ・マニホールド室は敷地外の建物から11.4m以上(第一種)の保安距離を確保します。

⑦その他の構築物

- ・敷地内にバリアフリーで十分な待合スペースのあるバス停留所、タクシー乗降所を整備します。
- ・エネルギー棟とサービス棟の間に地下駐車場へのスロープを計画します。
- ・サービス棟に隣接する液酸タンクは敷地外の建物から11.4m以上(第一種)の保安距離を確保します。
- ・受水槽、井水設備は敷地西側に設け、周囲を高生垣等で囲い、周辺からの視線に配慮した計画とします。
- ・増築用地の東側に埋設オイルタンクを6基を設け、災害時においても十分な量の燃料を確保します。

■ 建築計画

3 配置計画、外部動線計画



■ 建築計画

3 配置計画、外部動線計画

2 外部動線計画

2-1 外部動線計画の基本方針

- ・敷地への主なアプローチは、敷地東南側に隣接する片側1車線、幅員 10.5mの公道を利用し、バス、タクシーのアプローチが多い県道13号線のある東側にアプローチゾーンを計画します。
- ・現状、片側1車線である前面道路のアプローチ部分を拡幅し、ゼブラゾーンを設けることでバス、タクシーの進入時にも円滑な自動車交通を維持できる計画とします。
- ・車両出入口はロータリーのある敷地東側と、地下駐車場及びサービスヤードに直接アクセスできる敷地西側の2か所に設けます。
- ・ロータリーはバスの転回やタクシーの待機場所などを考慮し、十分な広さを確保します。

2-2 歩行者動線について

①患者の動線

- ・病院の主出入口はロータリーに面した診療棟東側に配置し、前面道路レベルと合わせた1階に計画します。
- ・神奈川区側の敷地は、前面道路側に歩道状公開空地(横浜市市街地環境設計制度による)を設けて現状の歩道環境を改善し、病院利用者をはじめ周辺住民にも配慮した安全で快適な歩行者動線を形成します。

②スタッフの動線

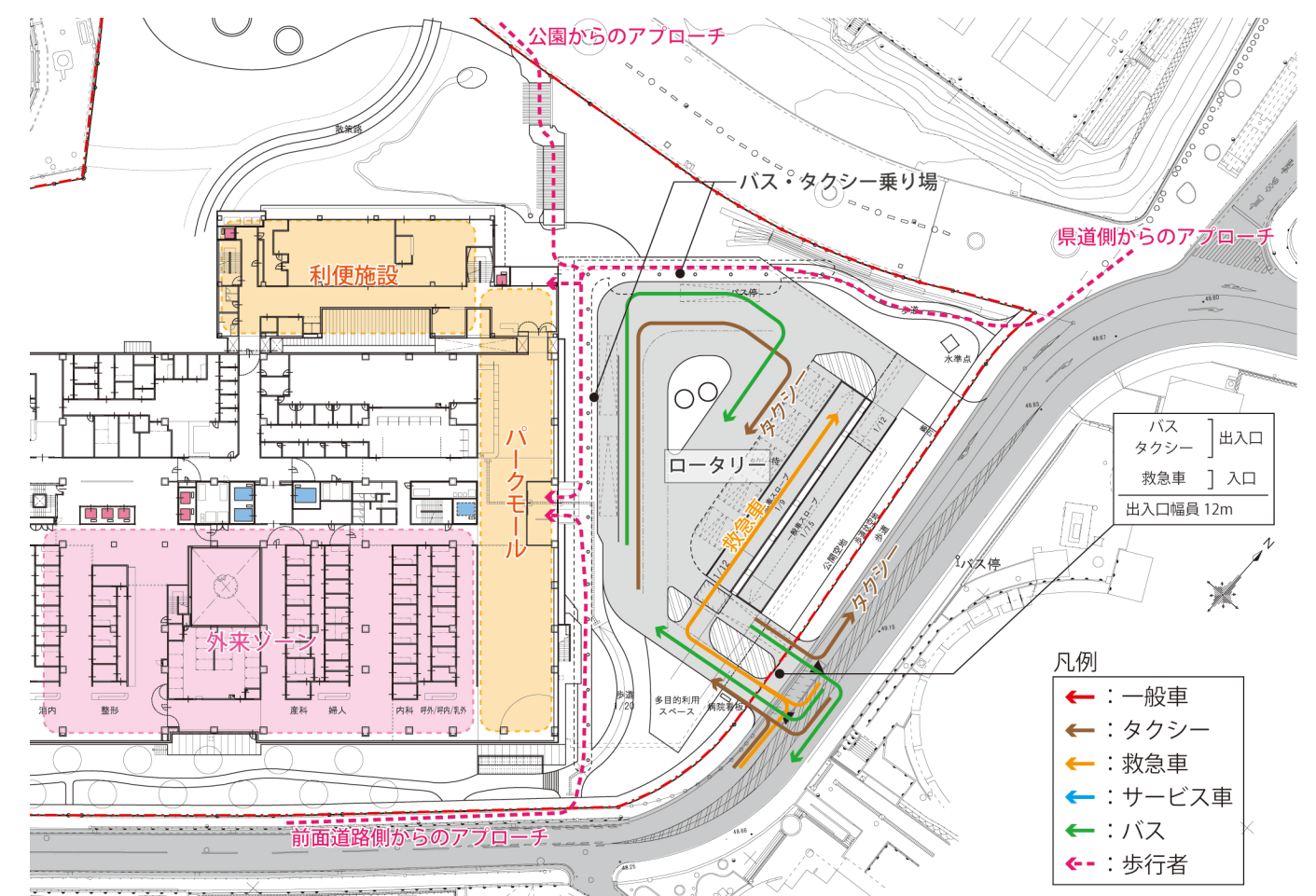
- ・主として管理棟からのアプローチとします。
- ・西区側の敷地は、既存の歩道に対して敷地をセットバックし、歩道を拡幅することで、神奈川区側と同様に安全で快適な歩行者動線を形成します。

2-3 救急車動線について

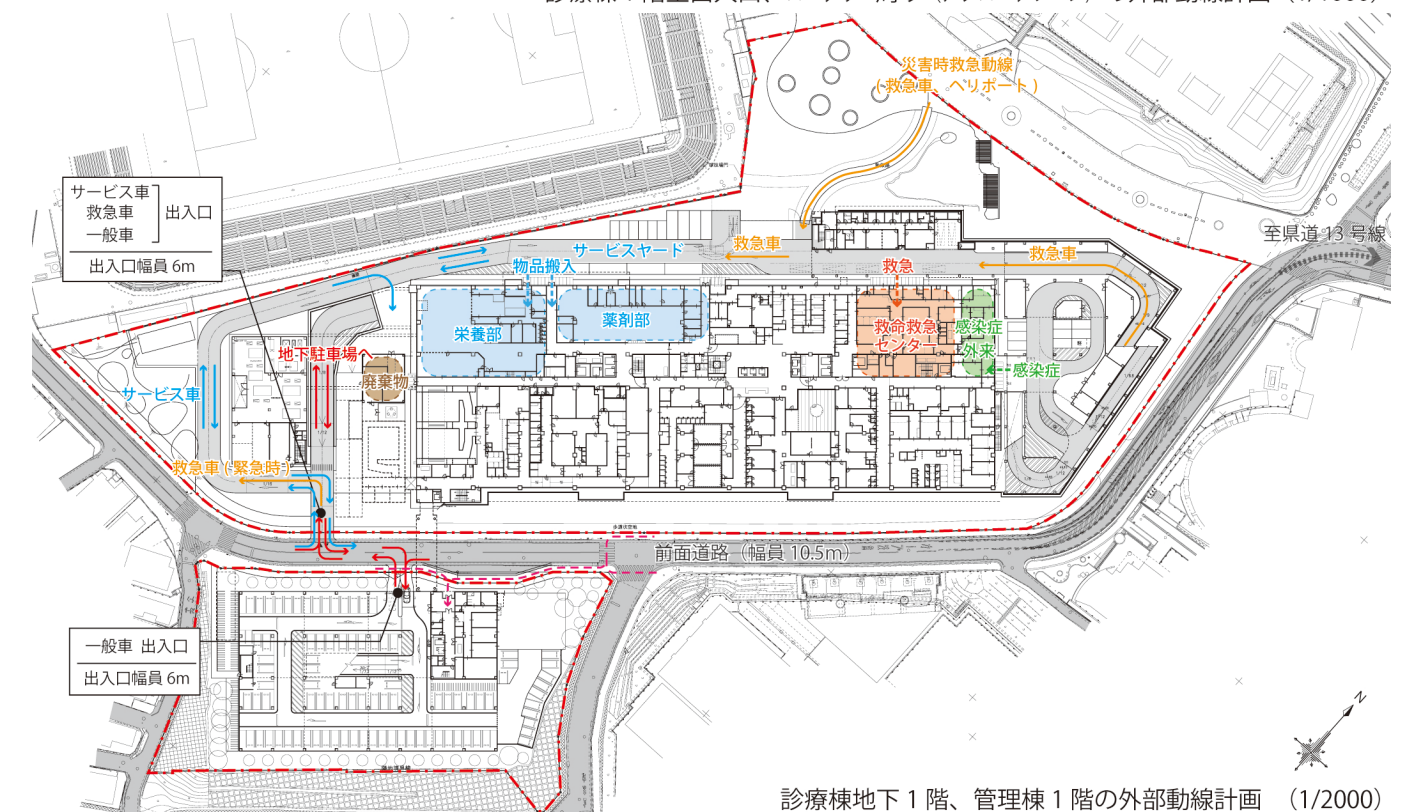
- ・救命救急センターとして救急車の2方向アクセスを確保します。ロータリー側からの進入を主とし、ロータリー前での事故など、緊急時にも最短経路で救命救急センターにアクセスできるよう、西側出入口からも進入可能な計画とします。
- ・敷地北側の公開空地には公園からの救急車の進入通路を設け、災害時等に三ツ沢公園のヘリポートから救急患者を搬送します。

2-4 一般車動線について

- ・一般車のメインアプローチは敷地西側とすることで、右折進入による三ツ沢交差点付近の渋滞を防止し、出庫は原則として左折のみとすることで、安全性の高い計画とします。
- ・バス・タクシーは病院の主出入口に近いロータリーに右折進入する計画とし、タクシーの出庫については左折のみとすることで、周辺交通の安全性を確保します。



診療棟1階主出入口、ロータリー周り(アプローチゾーン)の外部動線計画 (1/1000)



診療棟地下1階、管理棟1階の外部動線計画 (1/2000)

4

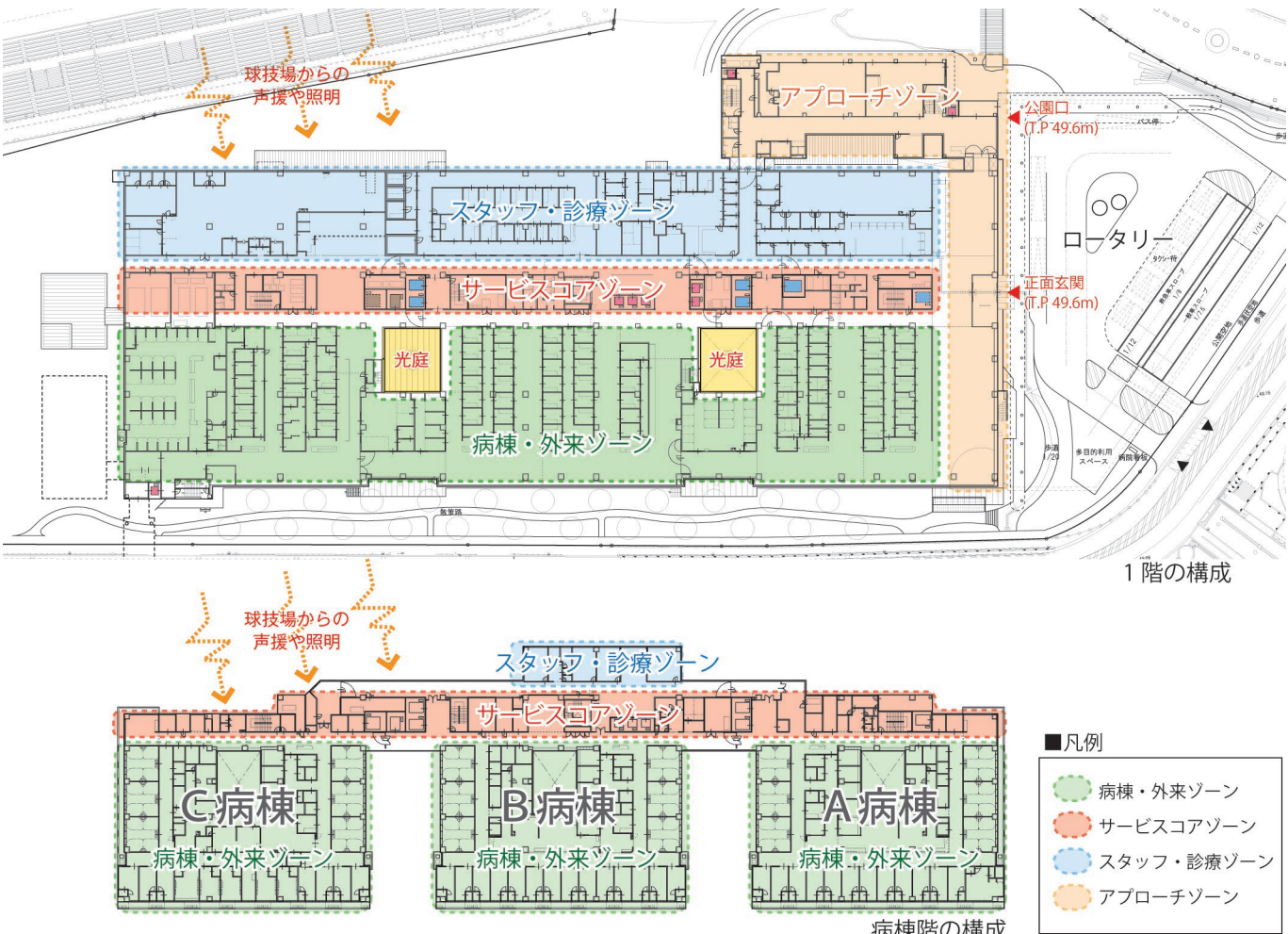
1

1-1

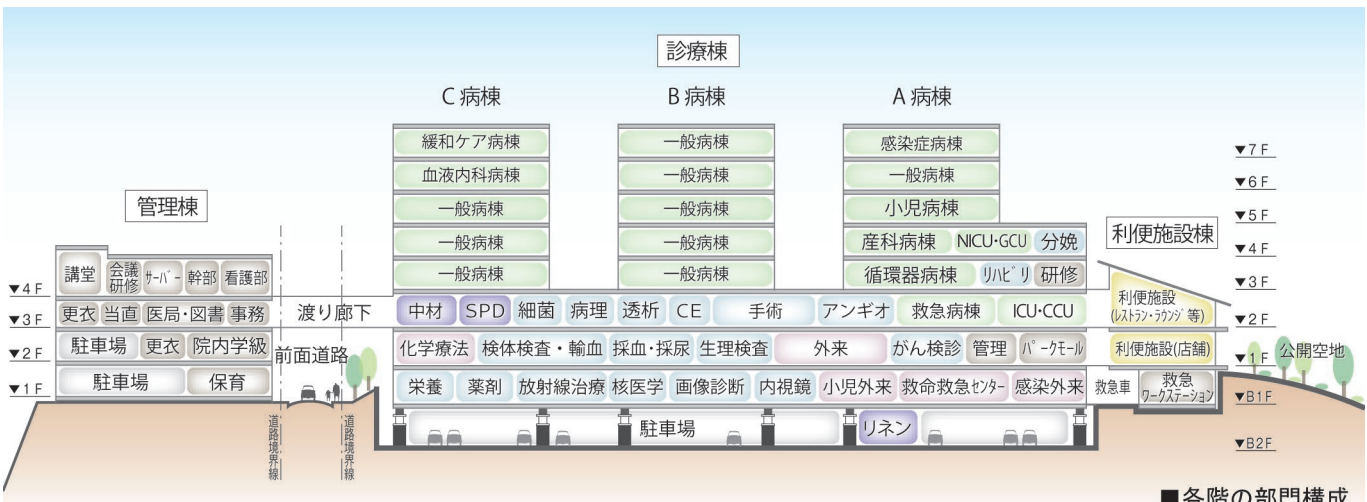
- ・診療棟は地下2階、地上7階、塔屋1階の計画とします。また、管理棟は地上4階とします。
- ・敷地固有の諸条件(細長い形状、高低差、高さ制限、球技場の影響等)に対応した3つのゾーン構成、3つのブロック構成とします。
- ・「サービスコアゾーン」の南北に「病棟・外来ゾーン」と「スタッフ・診療ゾーン」を配置した明快な構成とし、わかりやすく効率的な平面計画とします。また、1階のロータリーと公園に面した側を一体的なアプローチゾーンとして計画します。
- ・エレベーター、階段、設備シャフトをサービスコアゾーンに集約します。
- ・良好な療養環境が求められる病棟・外来ゾーンは球技場の声援や照明の影響が少ない南側に配置し、球技場側には影響を受けにくいスタッフ・診療ゾーンを配置します。

1-2

- ・病院の基本的な構成要素である5つの群「病棟」「外来部」「診療部門」「供給部門」「管理部」に対して、各部門間の機能連携を考慮した配置(階構成)とします。
- ・様々な機能を効果的・効率的に発揮するため、関連する部門の近接性やつながり、人や物の流れを重視した部門配置計画とします。
- ・関連する部門は、同一階に配置するか、直上階・直下階に配置してエレベーターなどで連絡する計画とし、動線短縮と機能連携の強化を図ります。
- ・避難経路となる階段は、サービスコアゾーンに均等に配置し、避難距離の短縮に努めます。



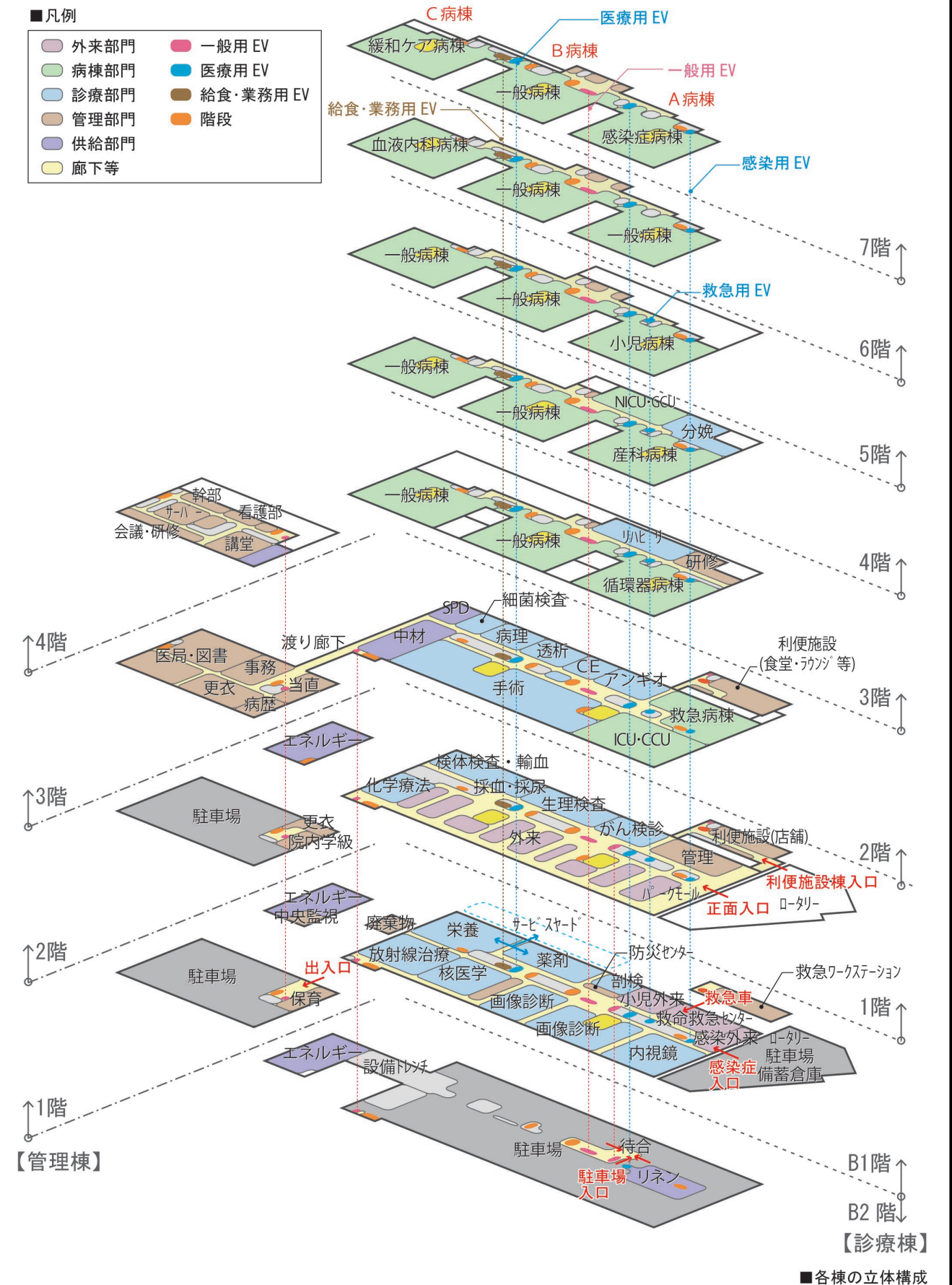
■ 3つのゾーン構成、ブロック構成



2 各部門構成

2-1 各部門の階層構成

- ・外来と入退院の出入口は、バス・タクシー等の玄関を1階に、自家用車のための駐車場を地下2階に設けます。また、地下駐車場と外来診療フロアをエレベーターで直結し、車利用の患者・家族が直接入館できる構造とします。
- ・地下1階に救急医療と一般外来に関連の深い画像診断、内視鏡等を配置します。また、救急隊との密接な連携を図るため、救急ワークステーションを併設します。また、サービスヤードに近接して薬剤部と栄養部の供給部門を配置します。
- ・1階は外来診療フロアとし、一般外来の診察室・中央処置室、臨床検査、患者総合サポートセンター、がん検診を配置します。
- ・2階は主に周術期医療と救急医療のフロアとし、周術期の医療の連携強化を図るため、手術、血管造影、ICU・CCU病棟、救急病棟を隣接して配置します。
- ・4・5階は小児・周産期医療のフロアとし、産科病棟、分娩、NICU・GCU、小児病棟を配置します。
- ・一般病棟は3～7階に配置し、病棟間の連携と関連診療科の調整を行いやすくするため、1フロアに3つの病棟を並列配置します。
- ・救急、集中治療領域、小児・周産期の医療に係る部門と関連の深い病棟を東側A病棟の上下階に集約して配置し、エレベーターによる患者の搬送距離を短縮します。
- ・リハビリテーションは関連した病棟との連携ができるよう3階に配置します。また、循環器病棟はICU・CCU病棟の直上階に配置します。
- ・緩和ケア病棟と無菌室ゾーンのある血液内科病棟は療養環境に配慮し、眺望がよいC病棟の上層階に配置します。
- ・感染症病棟はA病棟の最上階である7階に配置し、地下1階の感染症外来から第一種・第二種病室ゾーンへ患者を直接搬送する専用のエレベーターを設置します。
- ・公園側に配置する利便施設棟は、コンビニエンスストア、カフェ、レストラン等を設置します。また、1階・2階は診療棟と渡り廊下で連絡します。
- ・管理部門は主に管理棟に配置します。2・3階に更衣室、3階に事務・医局関連の諸室、4階に管理者室や講堂等を配置します。また、関連部門として1階に院内保育所、2階に院内学級、4階に学生実習室等を設置します。
- ・エネルギー部門はESP事業の導入を想定し別棟で整備します。設備トレンチから診療棟等へエネルギーを供給します。

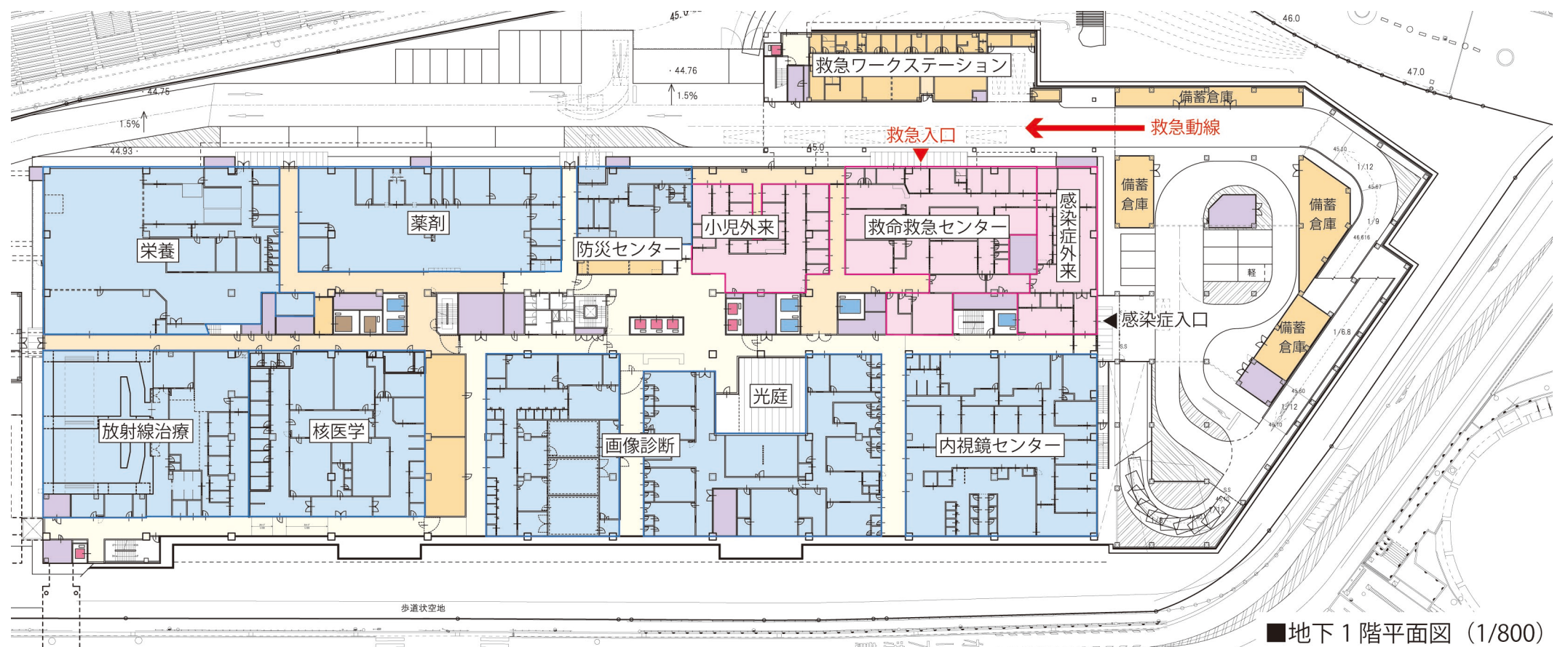


■ 建築計画

5 各階の計画

1 地下1階の計画

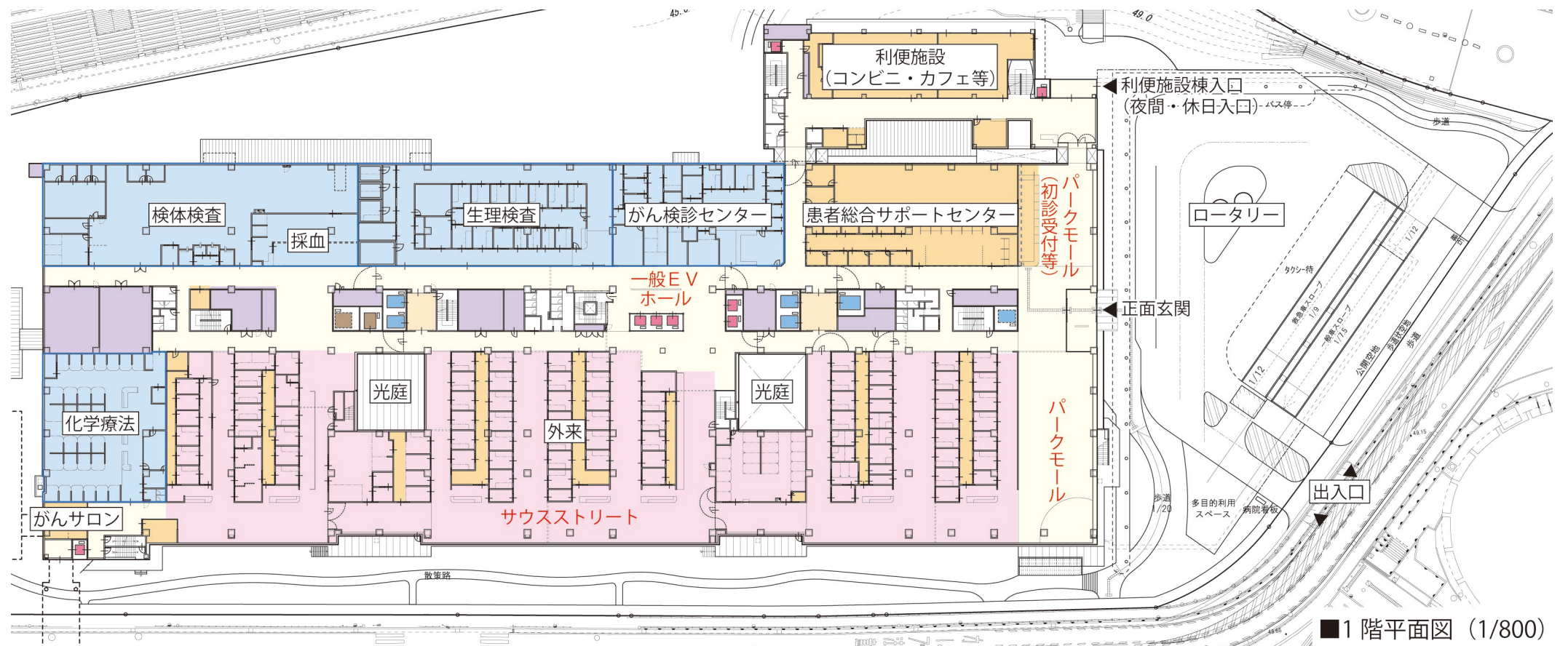
- ・救命救急センター、E R、小児外来、感染症外来を並べて配置し、救急医療、小児救急医療、災害医療を連携して担うゾーンに整備します。感染症外来は独立したゾーンとし、出入口と駐車場を分離します。
- ・ロータリー下の感染症外来入口前のスペースに災害用備蓄倉庫を整備します。



■地下1階平面図 (1/800)

2 1階の計画

- ・一般外来を南側に、検査部門などを北側に配置します。
- ・ロータリーに面した出入口と地下駐車場利用者の一般エレベーターホールの2か所にエントランスを設けます。
- ・公園に面してコンビニエンスストアやレストラン、カフェ等を配置します。公園利用者にも開放し一帯のにぎわいを創出します。
- ・南西側に化学療法室(30床)とがんサロンを近接して配置します。
- ・災害時にロータリー、外来ホール(待合)を、傷病者の受け入れ、トリアージスペースとして一体的に活用します。

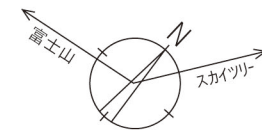


■1階平面図 (1/800)

5 各階の計画

3 病棟の計画

- ・ 3つの病棟を並列に配置し、2か所の医療エレベーターホールから搬送動線を確保します。
- ・ 病室は1床室2室を4床室に、4床室を1床室2室に改修可能な構造とし、医療環境の変化に対応します。
- ・ 1病床当たりの面積は、現行の6㎡から8㎡以上に拡充します。
- ・ 病床管理のしやすさやプライバシーへの配慮から十分な数の1床室を整備します。
- ・ 1フロア共用の研修室を設置するなど、3病棟の相互利用と多職種によるチーム医療の環境を整備します。
- ・ スタッフステーションは死角が少なく見通しのよいオープンカウンターとします。
- ・ 重症室と1床室をスタッフステーション近くに配置し、迅速な対応を可能とします。



■ 5階平面図 (1/600)